「南高スタイル」

「自由」「規律」「友情」

令和5年　10月17日
弘前南高校
1年次通信 No.6

「生徒会役員選挙」

生徒会役員選挙では執行委員長や評議委員長など、8名が立候補し、その応援弁士を含めると合計16名が壇上に上がり、熱弁を振るいました。コロナ感染症の影響で全校生徒が一堂に会す演説会は数年ぶりで、各立候補者の熱意と緊張感がリアルに伝わってきました。その16名のなかで、立候補または応援弁士として3名の1年生が演説したのですが、とても印象に残った場面がありました。それは、演説の冒頭から全校生徒に投げかけるような説得力ある話し方で、時には問いかけたり、また、その対策について具体的に明確に説明していることでした。ついついのめり込んで聞いていましたが、演説終了後は、「なるほどなあ」と思わずうなってしまい、心の中で思わずスタンディングオベーションしました。全校生徒を目の前にした緊張の中、聴衆の心に響く演説はなかなか容易ではありません。人前で話すことが常である教員にとっても、とても困難です。この準備には相当時間をかけシュミレーションしたに違いありません。周りの2，3年生を前に堂々たる演説を繰り広げた事を誇りに思います。これからも生徒会執行部として、魅力ある南高校のために知恵を出し合い、その発展のために尽力して欲しいと思います。

「言い訳は進歩の敵・・・」

故野村克也監督がヤクルトの監督に就任した当初、衝撃を受けた事があったそうです。ベンチ内では「ドンマイ、ドンマイ」「今日は雨だから厳しい」「相手はエースだから打てそうもない」「どうせ俺はダメだ」など、言い訳のオンパレードと負け犬根性、開き直りが当たり前のように蔓延し、愕然としたそうです。言い訳を言おうと思ったらいくらでも出てくるでしょう。自分の力不足を棚に上げて、周りや環境、相手のせいにすることがヤクルトの体質だったようです。これでは勝てないなと思ったそうです。

八戸に勤務しているころ、野球部のキャプテンで三沢から八戸市内まで、自家用車や電車、自転車を乗り継ぎ、毎日片道1時間半ほどかけて通っている生徒がいました。三沢から通っている生徒は全体の1割程だと記憶していますが、みんなこれくらいは当たり前のような感じで通学していました。彼が2年生になった頃、急に勉強の成績が向上し、学年上位に進出するようになったので、どうしたのか尋ねてみると、「特別に勉強時間を増やしていません。今までは移動中寝ていましたが、寝ないで勉強するようにしました」と言っていました。なるほど、毎日往復3時間かけて通学している時間を有効活用しているのだなと思ったのですが、そんなことでこれだけ進歩するものなのかと感心した次第です。彼は、最終的に法政大学に進学することができたのですが、毎日の隙間時間を有効活用した、地道に、けれどもしっかり実力をつけた結果なのだと感じています。三沢から通学する困難な状況を言い訳にしないことが、彼の成長を促したのではないでしょうか。

人は何かうまくいかないことがあれば、何かと言い訳や理由を言いたくなるものです。そして、それが根本的な問題解決にはならないことは自分でもわかっていながらも、ついつい言い訳を口にしてしまう。「言い訳は進歩の敵・・・言い訳人間に進歩なし」。言い訳や負け犬根性、開き直り精神が蔓延していた、弱小ヤクルトスワローズを常勝軍団に再生させた野村監督の信念が、今でも我々に問いかけているような気がします。

1 年次通信は弘前南高校 HP でも閲覧できます。
http://www.hirosakiminami-h.asn.ed.jp/